

## 第22回「地域の会」定例会資料

### 前回(2/3)以降の動き

#### 【公表関係】

- 2月4日 1号機の原子炉手動停止について  
平成17年2月4日午前10時30分頃、タ-ビン建屋地下2階復水器近くの小口径配管(外径約6cm)からモヤ状に蒸気が漏れいしていることを、パトロール中の当社社員が発見いたしました。本事象は直ちに運転に影響を及ぼすものではありませんが、点検および原因調査のため、午前11時45分からプラントの停止操作を開始いたしました。
- 2月7日 1号機の蒸気漏えいに関する調査状況について  
当所1号機は、蒸気漏えいに関する原因調査のため、2月5日午前1時10分にプラントを停止いたしました。その後の調査の結果、当該配管において直径1mm程度のピンホール(貫通孔)を2箇所確認いたしました。昨日、当該配管の切断作業を実施し、本日より詳細な原因調査を開始しております。
- 2月14日 3号機タ-ビン建屋でのけが人の発生について  
平成17年2月10日午前11時30分頃、定期検査中の3号機タ-ビン建屋地下1階において、弁の点検作業を行っていた協力企業作業員の使用していたハンマ-が、作業中に落下し、約50センチメートル下にいた作業員の背中(右肩部)にあたり負傷しました。診察の結果、右肩打撲と診断されております。
- 2月15日 補助ボイラ-における定期事業者検査の開始遅延に関する報告書の提出について  
( 詳細については別紙プレス発表文にて )
- 2月17日 3号機タ-ビン建屋でのけが人の発生について  
平成17年2月16日午前11時25分頃、定期検査中の3号機タービン建屋地下3階において、弁の修理工事の準備作業を行っていた協力企業作業員が、左ひざを火気養生用のブリキ板に接触させ、切り傷(約3センチメートル)を負いました。診察の結果、左大腿切創と診断されております。
- 2月21日 柏崎刈羽原子力発電所の累計発電電力量7,000億キロワット時の達成について  
当所は、昭和60年2月13日に1号機が試運転を開始してから今年で20年目を迎えますが、昨日(20日)午後8時18分頃、当所の累計発電電力量が7,000億キロワット時に達しました。この発電電力量を原油に換算すると約1億6,500万キロリットルとなり、日本全体の年間原油輸入量の7割弱に相当します。また、この発電電力量をすべて石油火力により発電した場合と比べると、約4億9,280万トンのCO<sub>2</sub>の排出を抑制したことになります。

- ・ 2月22日 4号機圧力抑制室内の最終点検の実施について
 

当所では、圧力抑制室内への異物混入防止対策の一つとして、原子炉格納容器漏えい率検査前までに圧力抑制室内の水中確認を実施することとしております。4号機において、この最終点検を平成17年2月20日に実施し、ゴミ・塗膜片を回収するとともに安全上問題となるような異物がないことを確認いたしました。
- ・ 2月25日 3号機における警報の誤発生について
 

平成17年2月24日、プロセスモニタ機能検査の準備のため、事前処置用のケーブルに取付けられた表示札（当該処置済みを示す札）を手を持って確認していたところ、当該ケーブルの接続部分に若干のゆるみがあったことから、午後3時6分頃、「主蒸気管放射能高高トリップ」の警報が発生しました。当該札から手を離れたところ、直ちに警報はクリアしました。その後、ゆるみが確認された箇所については、すみやかに締め付けを行い是正しました。原子炉は停止中であり、主蒸気は流れていないことから安全上の問題はありません。
- ・ 2月28日 7号機の定期検査開始について
 

平成17年3月1日から、7号機（改良型沸騰水型、定格出力135万6千キロワット）の第6回定期検査を開始いたします。

以上